# 「ことばでおぼえる　やさしい漢字ワーク　初級２

# ー日本語初級２大地準拠ー」

# 教師用ガイド

これは、『ことばでおぼえる　やさしい漢字ワーク　初級２ー日本語初級２大地準拠ー』をお使いの先生方に、より学習者にわかりやすく伝えるための教え方のヒントを集めたものです。実際に筆者がクラスで学習者に指導した方法がもとになっています。少しでもお役に立てば幸いです。

【目次】

漢字のストラテジー５……　P. ２
各課の練習２３－２７……　P. ３
漢字のストラテジー６……　P. ５
各課の漢字２８－３２……　P. ６
漢字のストラテジー７……　P. ７
各課の漢字３３－３７……　P. ８
漢字のストラテジー８……　P. ９
各課の漢字３８－４２……P. １１

## 漢字のストラテジー５

【学習のポイント】

「漢字のストラテジー５」と「同６」では、学習漢字が増えてきたところで、より効率的な学習を目指し、意符として漢字の意味を表す部首と、漢字の音を表す音符について学習する。

１◆

「泳・海・洗」の漢字の意味を確認し、それに共通する形「さんずい」とその意味を確認する。そして、漢字には共通する意味を表すグループ（＝部首）があることを説明し、覚える際のヒントとして役立てることを伝える。例えば、間違いの多い「持」と「待」では、「扌（＝手）」が分かれば、形が特定できる。

「くさかんむり」は、他に「薬」や「英」などがあるが、「薬」は薬草から、「英」は「はなぶさ」という意味から、共通性がある。

「かい」は、昔、中国で貝がお金として使われていたことからこの漢字になっていることを説明する。

「やまいだれ」は、他に医療の専門用語に多いが、共通言語がある場合は、「（花粉）症」「痒い」「癌」「医療」などのことばと漢字を紹介してもいいだろう。

「しんにょう」は、他に「遠い」「遅い」「速い」「この辺」「週」「通」「進む」など使用範囲が広い。学習者の知識に応じて紹介し、書き方を確認しておくとよい。

「もん」は、「門」の意味を確認した後、それが「開」「閉」「間」とどのように関わるか、意味を学習者に考えさせるなど活動につなげると定着につながる。また、書き方が難しいので、書き順を確認しておくとよい。

Ｑ１（クイズ）は、共通する部首を見つけるための活動である。同じ部首を持つ漢字にどのような意味の共通性があるかを確認するとよい。

【もっと理解するためのコツ】

より活動的に行う場合や、学習者の既習漢字の定着がよい場合は、「例」のみで「部首」と「意味」の部分を隠した表を作成し、共通点を考えさせる活動を行うと、より定着が図れる。その際、他によく使う部首などを入れておくと、活動の幅が広がるだろう。

【例】

| 部首 | 意味 | 例 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 泳 | 海 | 洗 |
| | | 花 | 草 | 茶 |
| | | 買 | 貸 | 賃 |

## 各課の練習２３-２７

ことばの意味がしっかりわかってから取り組むとより効果的である。まず、フラッシュカードを見せながら（スリーネットワークのウェブサイトでダウンロード可能 http://www.3anet.co.jp/ja/6661/）、読み方と意味を確認する。使い方が難しいことばは、例文を挙げさせたり、どんなことばと一緒に使うかなどを言わせたりして確認する。ことばが増えてきたら、ペアになって読み方を隠してことばを言う練習をさせたり、自分でことばを繰り返して言わせたりするなどして、覚えさせるとよい。

書き方は、『初級１』のストラテジー１で学んだ線の書き方にならって書くように指導する。慣れてきた学習者には、どのように書くか、書き順を予想して板書させるなどし、左から右へ、上から下へ書く書き方がどの程度定着しているかを見るとよい。

書き取りは、下線のある漢字だけでもよいが、慣れてきて、書きたい漢字があったら、積極的に書くように勧めると意欲向上にもつながる。

### ◇２３課

読みでは、「交通」の２文字がそれぞれ長音であること、「一丁目」の「一」が促音化すること、「大丈夫」の「丈」が長音であることを確認する。また、「開く」は「ひらく」とも読めるが、ここでは触れない。学習者から質問が出た場合は、文脈によって読み方が変わるが、「ドアが開いています」の形のとき、「あ」と読むことを確認しておく。「少し」は「少ない」と混同し、「すくし」と表記する学習者が少なくないため、「少し（すこし）」は動詞や形容詞に続く副詞で、「少ない（すくない）」は形容詞であることと、その読み方の違いを確認しておくとよい。

書きでは、「銀」の「金」の最後が上に跳ね上がる線になっていることを確認する。「春」には３つの漢字が隠れているという遊びをやっても面白い。「三人の日」を見つけられた学習者には、「三人でピクニックをする日は春」としておくと、記憶に残りやすい。「鳥」の「灬」の向きについて、「左、右、右、右」となっていることを確認しておく。

## ◇２４課

読みでは、「大人」は熟字訓で、２語でまとめて読むことに触れておく。

書きでは、「漢」の右側を書く際に、横の線を多く書きすぎることがあるので、草冠の下は「口、二、人」であることを確認する。また、「物」の「牛」を「才」と書く学習者もいるので、注意する。「運」の「しんにょう」がうまく書けない学習者が多い。ひらがな「ろ」と「へ」を意識させ、特に「へ」から払うように書かせるとうまく書けるようになるだろう。

## ◇２５課

読みでは、「発表」では促音化のあとに半濁音になっていることを意識させる。「昨日」は熟字訓で、まとめて「きのう」と読む。「人気がある」は、口頭で練習しているときは気付きにくいが、「じんき」と読んでいる学習者がいる場合があるので、ひらがなで「にん」と読んでいることをしっかり確認しておこう。

書きでは、「教」の「攵（ぼくづくり）」を４画ではなく「ノ、又」のように３画で書く学習者がいるので、２画目が長く、「ノ、一、メ」のように書くことを確認する。「考」では、「土、ノ」の後、「一」と書く学習者がいるが、「ノ」であることを確認しておく。

## ◇２６課

読みでは、「話」は名詞の時には「はなし」と読み、動詞の「話します」のときには漢字部分が「はな」だけになっていることに注意する。「旅館」の「旅」を「りょう」と読む学習者がいるので、「りょ」と短く読むことを確認しておく。「出席」の「出（しゅつ）」が促音化し、小さい「っ」になっていることにも注目させる。「今度」を「こんどう」と読む学習者がいるので、「ど」であることに注意する。

書きでは、「映」の「央」の中を「口」のように書くことがあるため、横線が長いことに注意する。「画」は書き順が難しいため、板書し、学習者にも実際に書かせてしっかり確認しておこう。

## ◇２７課

読みでは、「仕事」「気分」「夕方」など２字目が濁音のものに注意する。「通う」「転ぶ」など、日本語の意味が、辞書などの訳語の意味と完全には一致しない場合があるので、使い方を確認しておこう。「十分」を「じゅっぷん」と読む学習者がいた場合、どちらも正しいことを確認し、「今、九時十分です」「十分（に）気をつけてください」のように文脈によって読み方が変わることを説明する。

書きでは、「仕」は「土」ではなく、上の方が長い「士」であることに注意する。「帰」は、「刂」ではなく、「リ」であることを確認する。「遠」の「しんにょう」の書き方も再度確認しておく。

## 漢字のストラテジー６

【学習のポイント】

「漢字のストラテジー６」では、「漢字のストラテジー５」と同様、同じ形を持つグループのうち、同じ音を表す音符を持つ字を紹介する。

１◆

中級に近づくにつれ、学習すべき漢字語彙が増えていくが、その中で読みの定着に役立つのが形声文字の知識である。ここでは音符に注目し、学習する。読み方がわからない場合はとりあえず知っている漢字から類推して読んでみるということができれば、辞書を引くのにも役立つため、そのように伝えておく。ただし、初級の語彙には「主・注・住」など音読みが同じでないものもあるため、注意する。

ここで取り上げるのは共通する音符であるが、「漢字のストラテジー５」の部首の知識があることで、より漢字を識別しやすくなることを確認しておく。例えば、「交」は交わるという意味であるが、それが「木」と組み合わさることで、子どもたちが共に学ぶ校舎を表す「校」につながることなどを確認する。

Ｑ１（クイズ）は、これまで１つずつ覚えてきた漢字語彙の中に共通する音符を見つけ、同じ読み方であることを確認することで、形声文字の知識の広がりを実感してもらう。

Ｑ２（クイズ）は、形声文字は意味を表す部首と音符が組み合わさり、漢字が成り立っていることを知るための活動である。未習の語であるため、正解しなくてもかまわないが、意符と音符の組み合わせを体験できると、今後の学習意欲の向上にもつながる楽しい活動になる。

【もっと理解するためのコツ】

形声文字は漢字全体の 80％以上を占めると言われているため、しっかり理解を進めておきたい。他にも学習者が知っている語彙から、未知語の読みを推測させる練習を取り入れるとよい。例えば、「試験」が読める学生には、「車を点検する。」「剣道の試合に出る。」

「ここで泳ぐのは危険です。」などを読ませ、形声文字の知識をいかに活用するかを実感させてみるとよい。

## 各課の漢字２８ー３２

### ◇２８課

読みでは、「通る」は２７課の「通う」と同じ漢字であるが、送り仮名によって読み方と意味が変わることを確認しておく。

書きでは、「家」の「うかんむり」の下が、書体によって形が異なるため、手書きの位置を確認しておく。また「旅」の右側のバランスも難しいため、板書し、学習者にも書かせるなどして、書き方を確認しておこう。

### ◇２９課

読みでは、「急［な］」の意味と使い方を確認しておく。「きれい好き」の「好き」が濁音になっていることに注意する。

書きでは、「門」の書き順が難しいため、「｜、ヨ、｜、ヨ（変形版）」となっていることを確認する。

### ◇３０課

読みでは、「将来」の「将（しょう）」は長音で、「旅行」の「旅（りょ）」は短音であることを確認する。「北海道」の「北」が促音化していることに注意する。東西南北については、読めても意味や使い方を理解していない学習者がいるため、「中国は日本のどこですか。……西です。」や、「北海道は日本のどこにありますか。……北にあります。」のように、意味と使い方を確認しておくとよい。

書きでは、「病」の「やまいだれ」は、「ン」の書き方になっていることを各員する。「北」は書体によって３画目の位置が変わるので、手書きでの書き方を確認しておく。「南」を「洋」のように「羊」と間違えることがあるので、「ソ、一、ニ、｜」であることに注意する。「建」は「しんにょう」と異なり、２画目の線が交わっていることを意識させる。

### ◇３１課

読みでは、「大会」を「だいかい」と読んでいることがあるので、文字で「゛」がないことを確認する。

書きでは、「茶」の中を「木」と書く学生がいるので、「ホ」のように線が離れていることに注意させる。

### ◇３２課

読みでは、「計画（けいかく）」を「映画」と同様に「けいが」と混同することがあるので、別の読み方であることを確認する。また、「青い」などは、「青」という名詞に「い」がついて形容詞になっていることを説明しておくと、「あおいい」「あかいい」などと間違えることが少なくなる。

書きでは、「耳」の１画目と５画目が中の線より長く、右の縦線と交わっていることに注意する。「色」の書き順とバランスの取り方が難しいため、書き方を確認しておこう。

## 漢字のストラテジー７

【学習のポイント】

「漢字のストラテジー７・８」では、漢字の読み方のルールを確認する。「漢字のストラテジー７」の１◆では読み方が変わらないこと、２◆では連濁について、「漢字のストラテジー８」では促音化について、簡単に紹介する。

１◆

漢字の拗音を含む読み方は、長音の方が多いため、短音で終わる「しょ」を「しょう」と読んでしまう間違いが目立つ。学習者の中には、「図書館」は「と・しょ・かん」と読むが、「辞書」は「じ・しょう」と伸ばして読むなど、同じ漢字であっても別の読み方をする学習者もいる。そこで、漢字は基本的に読み方が変わらず、変わるのは連濁と促音化だけであることをこの後、１つずつ確認する。

２◆

読み方が変化する１つ目の、連濁について説明している。和語が組み合わさったとき（例：ごみ+はこ、て+ふくろ）、後の語の最初の音が濁音になり、１語であることを表す。例外的に「会社、時計、寿司」など、漢語や音読みの語もあるが、基本的に訓読みの和語であると言ってよい。アクセントも変化するので、読み上げて確認しておくとわかりやすい。

Ｑ１（クイズ）は、これまで１語として考えてきたことばが２語の組み合わせで成り立っていることを意識させる活動である。そのときに、「゛」が後の語の始まりであることを意識させる。

Ｑ２（クイズ）は、２語を組み合わせて１語にする問題で、後の語の始まりが濁音になることを意識させる。また、前の語にカタカナ語がある場合でも、同様に連濁が起きることを確認しておく。

【もっと理解するためのコツ】
身近な地名などにも連濁が見られるので、このルールが当てはまると思われる場所名を挙げてもらうと盛り上がる。関東圏であれば、「江戸川（えどがわ）、新橋（しんばし）、船橋（ふなばし）、赤羽（あかばね）、池袋（いけぶくろ）」などが学生から出され、もともとの読みが「川（かわ）、橋（はし）、羽（はね）、袋（ふくろ）」であることを確認しておくと、連濁についての実感が湧き、定着が図れる。

## 各課の漢字３３ー３７

### ◇３３課

読みでは、「間に合う」の「間」の様々な読み方を整理しておくとよい。「ＡとＢの間（あいだ）にある」「昼間（ひるま）」「電車に間（ま）に合う」「時間（かん）がない」など、ことばの使い方によって読み方が変わることを意識させる。
書きでは、「不」の４画目を２画目３画目と同じ場所から「木」のように書く学習者が多いので、少し下がった場所から書き始めることを意識させる。

### ◇３４課

読みでは、「お先に」の「さき」を「さっき」だと思っている学習者もいるため、表記でも確認しておく。
書きでは、「昼」の４画目を上の「コ」の縦線に揃えて書こうとする学習者もいるので、内側から書き始めることを確認する。

### ◇３５課

読みでは、「神社」の「社」が「会社」と異なり、濁音であることを確認しておく。また、「七夕」は特別にまとまって「たなばた」であることに注意する。

書きでは、「習」の「羽」の点の向きに注意する。「雨」のように書くのではなく、「ン」であることを確認する。

### ◇３６課

読みでは、「行う」は「行く」と同じ漢字であるが、送り仮名や使われ方によって読み方が変わることを確認する。例えば、「銀行に行く」「コンビニに行った」「オリンピックが行われた」「スピーチ大会を行った」などを挙げ、「行った」が文脈によって、どちらにも読めることを示すとよい。「発明」と「発見」は促音化の有無が異なるため、確認しておく。

書きでは、「業」の書き順とバランスが難しいため、共有しておく。

### ◇３７課

読みでは、「当日」の「日（じつ）」がこれまでの読み方と異なることに注意する。「世界中」を「せい*/かい/ち*ゅう」と読み間違えることがあるので、確認しておく。

書きでは、「写」は「うかんむり」ではなく、「わかんむり」であることに注意する。

## 漢字のストラテジー８

【学習のポイント】

「漢字のストラテジー８」では、促音化のルールについて、①音読みが「く」で終わる場合と、②音読みが「ち/つ」で終わる場合に分け、簡単に紹介する。

１◆

①「く」で終わる漢字であるが、「書く」「行く」などの訓読みではなく、音読みの場合であることに注意する。「学（がく）」「校（こう）」の組み合わせが、「がくこう」ではなく、「がっこう」になる場合であるが、学習者に「がくこう」や「学科（がくか）」などを言わせ、後ろに「か行（k）」が来る場合、言いにくいために促音化していることを実感させるとよい。また、アルファベットに馴染みのある学習者には、「gakukou」のようにローマ字で書き、間の「u」が落ちていることに気付かせる方法も効果的である。

＊「き」で終わる音はすべてが促音化するわけではないため、ここでは、例にある「石（せき）・赤（せき）」にのみ注意させる。

Ｑ１（クイズ）は、２字目の漢字の最初の音を意識しながら、促音化するものとしないものを考え、実際にひらがなで表記する問題である。そのことばを知らなくても、このルールが当てはまることを確認する。

②「ち/つ」で終わる漢字であるが、これも音読みであることを確認する。また、後ろに来る音が「か行/さ行/た行（k/s/t）」および「は行（h）」であることに注意する。これらは無声音、つまり、子音を読み上げたとき、声帯が震えない音であるため、実際に学習者と一緒に発声し、その共通性に気付かせると感覚がつかみやすい。反対に「一台」の「だ（い）」や「一番」の「ば（ん）」などの有声音を発音し、声帯が震える場合は、促音化せず、そのまま発音することを併せて確認しておくと、違いがわかりやすいだろう。

Ｑ２（クイズ）も、Ｑ１と同様に、２字目の漢字の最初の音を意識しながら、促音化するものとしないものを考え、実際にひらがなで表記する問題である。そのことばを知らなくても、このルールが当てはまることを確認する。

【もっと理解するためのコツ】

ルールを１つずつ説明していくと、複雑に思う学習者の場合は、次のような活動を通して興味を持たせてもよい。

①「く」の活動

小さい「っ」になる場合として、「学会、学期、学区、学研、学校、学級」を板書し、ふりがなを振り、読み上げる。次に、小さい「っ」にならない場合として、「学生、学部、学食、学割、学芸」を板書し、ふりがなを振り、読み上げる。このとき、意味ではなく、「か・き・く・け・こ・きゃ」という後の漢字の１音目を強調して聞かせるようにする。そして、どんなときに促音化するかというルールを発見させると、定着がしやすい。

②「ち/つ」の活動

①と同様に、読み上げによって、ルールを発見させるとよい。その場合は既習の語彙を挙げるとわかりやすい。促音化するものとして、「一回、一個、一足、一緒、一通、一点、一杯、一本」などを挙げ、しないものとして「一台、一番、一枚、一年」などを挙げる。学習者に「一」や「八」から始まる語を挙げさせ、教師が板書をしていってもよい。学習

者が持っている既存の知識を生かし、そこに自分自身で法則性を見いだせれば、より深い定着につながる。

## 各課の漢字３８ー４２

### ◇３８課

読みでは、「授業中」は「世界中」と異なり、「中」を「ちゅう」と読むことに注意する。「電話中、運転中、仕事中、勉強中」など「～している」の意味のときは「ちゅう」と読み、「世界中、日本中、今日中、一日中」など「～全部」の意味の時は「じゅう」と読むと説明しておくと、わかりやすい。ただし、「午前中」の「ごぜん」など、前の語に濁音が続く場合は、「ちゅう」と読むことを付け加えておく。

書きでは、「発」や「正」の書き順や字形のバランスが難しいため。線の書き方や長さを丁寧に確認しておくとよい。

### ◇３９課

読みでは、「留守」の「留（る）」は「留学生」と違う読み方をすることを確認する。

書きでは、「集」の「隹」は、「曜」「進む」や「難しい」にも使われていることを確認しておくとよい。ちなみに「隹」は鳥の意味で、「集」は木の上に鳥がたくさん集まっている様子を表した字である。また、「使」の最後の画は「人」はなく、交わっていることを意識させる。

### ◇４０課

読みでは、「旅」を「旅行」との違いを説明しておくとよい。「旅」は予想外の出来事に出会う可能性があるが、「旅行」は楽しみのために計画的に行うイメージがあることを伝えておく。したがって、人生は「旅」に例えられるが、「旅行」には例えられない。
書きでは、「弟」の書き方が難しいため、線の入る方向などを確認しておく。また、「姉」の「市」の中央線をすべて１本で書くのではなく、「亠」であることを確認する。

### ◇４１課

読みでは、「作家」と「学者」について、「漢字のストラテジー８」のように促音化する場合としない場合の規則を意識させるとよい。また「少々」が長音であることを確認する。

書きでは、「医」の構えが「区」と同様の筆順であることを確認する。

### ◇４２課

読みでは、「私」が「わたくし」と読み、「わたし」より丁寧な意味になることを確認する。また「本日」は「当日」と同様に「じつ」であることを意識させる。

書きでは、「様」を「木、羊、水」の組み合わせと間違えることがあるが、右側の中央線は１本であることを説明し、丁寧に書く練習をさせる。この漢字は JLPT のレベルとしては高いが、日本に住む学習者なら、メールや手紙などで頻繁に使う可能性があるため、入れてある。その意義も伝えておくと、学習の動機につながるだろう。